

秋から冬、2～3日で川に上って産卵をする

シシヤモ

Spirinchus lanceolatus

キュウリウオ科



シシヤモ。オス(上)は産卵時、婚姻色で黒くなる。下はメス

名前の由来

アイヌ語の「スサム(スス・ハム＝ヤナギの葉)」がなまったもの。アイヌ伝説にはヤナギの葉がシシヤモになったという話がいくつかある。ヤナギの葉に似た体型と、ヤナギの葉が散った11月頃に産卵遡上することなどが、名前や伝説の元となったのかも知れない。漢字名：柳葉魚

形態的特徴

全長12～18cm。口が大きく、歯も比較的大きい(キュウリウオよりは小さい)。側線は前方のみで不完全。側線方向に並ぶウロコの数は59～66。オス・メスともに尻ビレが大きく、オスは特に大きい。産卵期にオスは黒くなる。

脂ビレを持つ。(脂ビレ：背ビレと尾ビレの間のヒレで、サケ科、キュウリウオ科《アユの仲間も含む》、熱帯魚のカラシン亜目にもみ見られる。条《スジ》がない)

一 生

10月下旬～12月上旬に河川に遡上して産卵。150日程してふ化し、直ちに流されて海に降りる。

生息環境・分布

沿岸で群生する。産卵期にのみ河川に遡上する。

分布：世界中で北海道の太平洋沿岸にのみ生息する。

沿岸域に生息する。普通生後2年で(3年の場合も)成熟し、遡上・産卵後多くが死亡する。

食性・他生物との関わり

沿岸でゴカイなどを食べる。

繁殖生態

10月下旬～12月上旬、大群を作り、2～3日で川を遡上する。この時期オスは全身が黒くなり、尻ビレがさらに大きくなる。河口から1～4kmさかのぼり、浅瀬の砂や細かい

礫に粘着性の卵を産み付ける。産卵は夜間。産卵後ほとんどが死亡するが一部は生き残り、翌年産卵するものもある。

興味深い話

- 2～3日天日干したものを軽くあぶって食べる。フライにもする。水揚げ直後のものは刺身や凍らせてルイベにする。昆布巻きにされることもある。
- かつて貯蔵するときには、ヤナギの枝やヨモギの茎にさし、炉の上で燻製にした。
- アイヌ語では「スサム」と呼ばれる。

■ 鶴川には、食べ物に困った人たちのために、神がヤナギ(アイヌ語で「スス」)の葉(アイヌ語で「ハム」と魂とをいっしょに流した、というアイヌ伝説がある。他にも、神の国のヤナギの葉が誤って下界の川に落ちたのを神がかわいそうに思い、腐らないように魚に変えた、という話など、ヤナギの葉とシシヤモの伝説がいくつかある。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期〈河川〉										産卵後多くは死ぬ		
孵化・降海期			孵化									
幼魚期〈海〉	2年で成熟											
遡上・産卵期〈河川〉												

参考文献

「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦 保育社 1990
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修 山と溪谷社 1989

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ